

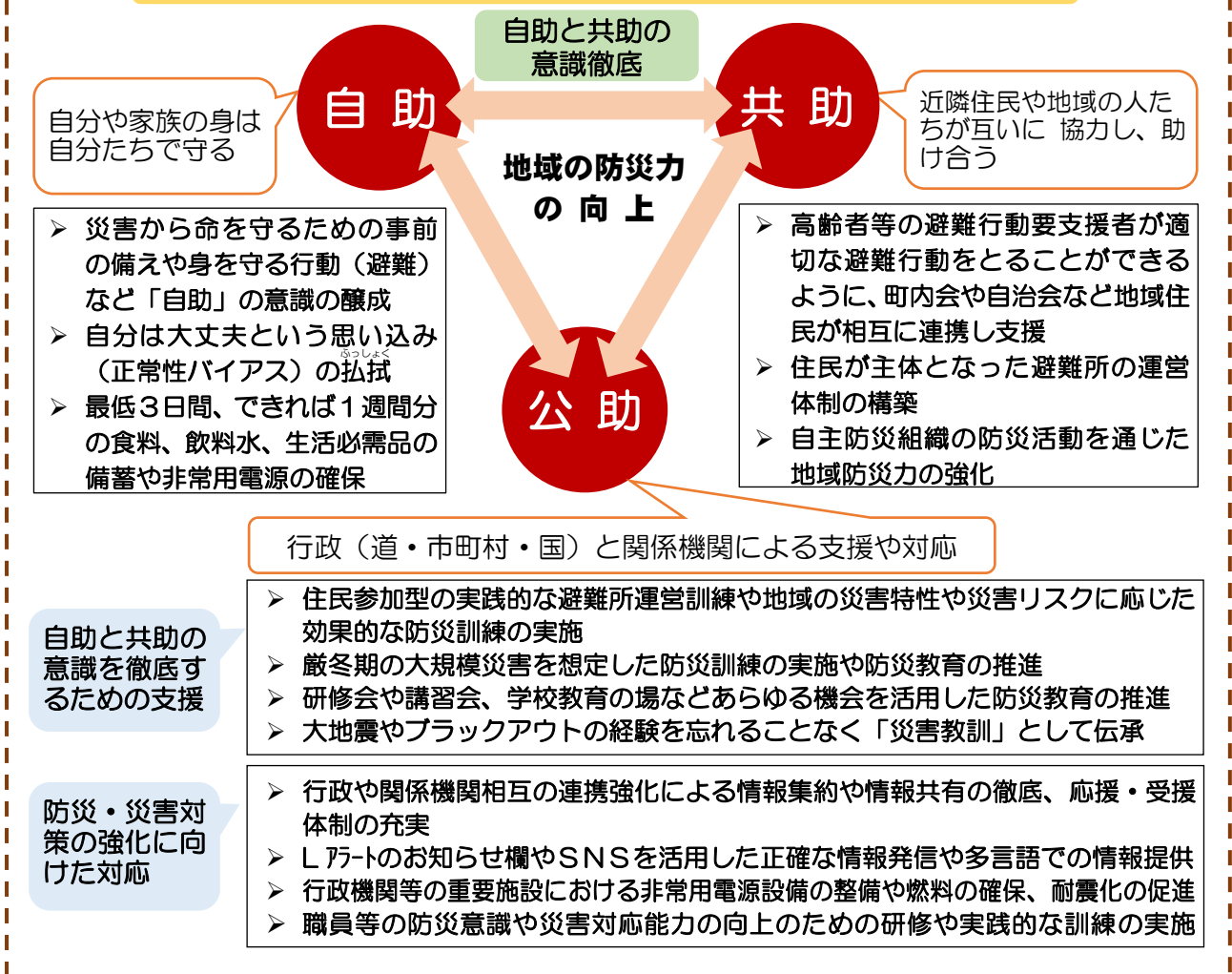
おわりに

本報告は、防災対策等に知見を有する学識経験者や防災関係機関等から構成された検証委員会において、被災地で活動された様々な関係者と意見交換を行うとともに、被災地のヒアリングを行い、約6か月にわたって議論を重ねて15項目について、課題等を抽出し、今後とるべき改善策を提言したものです。

私たちがこれまでに経験したことのない最大震度7を観測した大地震と道内全域に及ぶ大規模停電（ブラックアウト）による災害を教訓として、行政・関係機関による緊密な連携・情報共有ができる体制の構築と、道民による自助と共助という防災・減災対策の基本に立った防災に関する知識の習得や生活必需品等の備蓄、防災訓練への参加などの平常時からの備えが一層求められます。

胆振東部地震からの復旧・復興に向けて引き続き関係者が連携を一層強めながら取り組んでいくとともに、本報告を踏まえ、今後の災害に備え、住民、道、市町村、国、その他の関係機関が具体的な取組を速やかに実行に移していくことを期待します。

～ 道民の皆様や行政・関係機関へ特にお伝えすべき取組 ～



最悪の事態を想定！

積雪寒冷という本道の最も厳しい環境下において大規模な地震や停電が発生した場合を想定し、防災・減災対策を推進すべき